

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

万富の郷

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験6年

評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

訪問し玄関を入ると目の前に「漬物たる」がど～んと置いてある。後で分かったのだが、料理が得意な利用者が2樽目を漬けてくれたそう。大根の漬物も自家製。漬物の味を見に行き「こりゃ失敗かな？水があがったらんわ」「前も水を足したから大丈夫よ」と横から職員の声、自家製の野菜での食事は最高の味。今日は巻き寿司の先生が腕を見せてくれる。巻きすでなく新聞紙ですいすいと慣れた手つきで巻き、職員に「あんたも巻こう」と声を掛けると、職員は「教えてもらったので今年の節分には巻き寿司を自分で巻いたんよ」と話はどんどん広がる。こんな光景を見ていると、管理者が「大きな家庭を目指している」と言うのはその通りと感じた。利用者がよく眠れないでいると、布団の位置が悪いのかな？と職員皆で毎日位置を変えてみて、一番落ち着いて寝ることができる位置を共に考えていく。この事は、その人らしい生活をしてもらう上で、ひたむきに真剣に取り組んでいる管理者をはじめ職員の姿だと見た。また自然に寄り添い、話が弾む。

足浴をしようと利用者との会話は「もう少し待ってね。未だ36度」「あっ！！38度になったよ」と目を皿のようにして見ていた利用者の顔がにこっとする。「いい気持ち、いい気持ち」と顔まであたたまっていく。一緒に並んで座っている様子は、何とも言えないあたたかいものが伝わってくる。

壁には「節分の豆まき」の写真や他の行事の写真が貼ってある。代表者は、利用者の隣でアルバムの整理をしながら写真を見せては話をしている。この雰囲気から、職員がひたむきに利用者を思って行動している事が、あたたかいものに変えている力になっているものだと感じ取った。代表者・管理者・職員が一体となってホームの運営に真剣に取り組んでいる姿を見せてもらった。

特に改善の余地があると思われる点

前向きに真剣に取り組まれているのが感じられますが、次のことを提案させていただきます。

家族間の交流を密にして、家族の協力が得られるとうれしい。
良い季節になってくるので、戸外での生活リハビリ活動を進めていただきたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：代表者をはじめ全職員が「その人をその人らしく生活していただけるよう、寄り添って支援していく」利用者、家族、職員、地域の皆さんが大きな一つの家族になるように邁進している。</p> <p>2. 全体的に見て…：玄関に大きな漬物樽が置かれ、利用者はお漬物の先生。出来具合を心配して「美味く漬かったかな」と職員の声かけて入れ物を持って出かける。お台所の前では、足浴を今か、今かと足浴機の湯の温度をあっ！！上がったと指差しながら待っている利用者。そばに寄り添って職員が「もう少し、38度くらいになったらいいかな」と温度を見ながら二人で話している光景は、大きな一つの家族で寄り添いを基本にしているのが伝わってくる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：落ち着いて生活できるように部屋は、利用者が物の配置やベットの位置、自分の作品等を飾り、自分の住処となるようにつくっている。</p> <p>2. 全体的に見て…：その人に合った生活スタイル、部屋の家具の配置等に至るまで、利用者本人が落ち着いて生活できる環境作りを職員と一緒に検討している。例えば、布団の位置が変わることでゆっくり休めたり、家事を手伝うことで自分の生活を取り戻していく利用者。役割を担っているという想いが元気の元となっている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：利用者の得意だったこと、趣味を生かせる場を提供。それは食事作りであったり、習字であり塗り絵であり自分を生かせ、喜びが得られる取り組みがされている。身体機能を維持するために散歩、食事での健康維持に取り組んで行こうとしている。</p> <p>2. 全体的に見て…：今はいない利用者の経験が職員の間息づいている。それはこのホームに入ってきた一人の利用者が歩くことも出来ず、食事一人では難しかった人が、本人の持っている力を職員全員で引き出してあげ、一步一步、歩くことが出来、歌を歌うようになり、どんどんその人らしい生活を取り戻せたという自信は、本人のみならず職員の心にプレゼントを与えてくれた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：介護教室、ホームの認知症ケアに関する情報を地域に向けて発信して行こうと考えている。</p> <p>2. 全体的に見て…：運営推進会議でホームの活動状況、防災について、地域の状況などいろんな話題を話し合った。利用者一人で外に出た時の対応や防災時の応援等の支援が得られる体制も出来てきた。また、利用者のかかりつけ医との関係も蜜になり、利用者の異常な時にすぐ相談や指示がもらえるようになって受診や往診もしてもらえるようになった。ホームの利用者に対する職員の関わりの深さに医師も心を動かしてくれているように感じた。</p>		